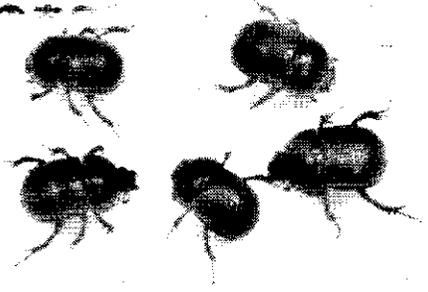


# きのこと甲虫

横山 元

gen yokoyama



キヌカラカサタケの観察中に、かさの断片が動いているのに気づきました。見ているとキヌカラカサタケの切れ端に甲虫が組みつき、きのこの真下の小穴に引きずり込んで行きました。しばらく待っても先程の甲虫は出てこないで掘って見ました。13cm程の縦穴にで今まで甲虫が運び込んだきのこが茶褐色に変色し試験管に積み込まれたような状態でありました。この甲虫を捕らえ飼育して見ました。金魚鉢に土を入れその上にスギゴケを敷き、餌はもちろん先程のキヌカラカサタケ。甲虫は環境が変わり戸惑ったのかスギゴケの上に置かれた餌を食べようとせずゴケの中にもぐったまま動かないでいました。夜の10時頃やっと動きだしキヌカラカサタケにぶら下がるような姿勢でたべ始め、翌朝にはキヌカラカサタケはすべて噛み砕かれてスギゴケの下に隠すように蓄えられていました。この甲虫がキヌカラカサタケを小穴に引きずり込んだ時と同じ行動をほぼ再現でき納得しました。この甲虫の名は図書館の甲虫図鑑で調べセンチコガネであることがすぐにわかりました。雪隠黄金虫がなまりセンチコガネで、糞虫として知られております。センチコガネは日本全国に生息し、哺乳類の糞などを食べるとされていますが、きのこ類も好んで食べています。センチコガネの習性はファーブル昆虫記にも詳しく記載されておりますがJ.-H.ファーブルは菌類にも興味を示し自ら描いたきのこの水彩画を残しています。

最初に捕らえたセンチコガネは夕食時につまみ



皿に入れ、ルーペで観察しているうちに羽ばたきを始めた途端、あつというまに風呂場の窓から飛び去った。不思議に思ったのは風呂場の窓が開いているのを始めから知っていたかのように茶の間から廊下、風呂場とS字形に上手に飛んだ知恵ものなのです。もうすこし観察したかったので今度はトラップ(ワナ)を什掛け捕獲してみました。プラスチックのコップにきのこをちぎって入れ前回捕らえた近くの地面に埋め仕掛けました。翌朝見に行ったら驚いたことにコップ半分位まで甲虫類がウヨウヨかかっていた。それから3年、捕獲、観察の繰り返しできのこに集まる甲虫類が多いのときのこを餌にしている甲虫類がわずかながらわかるようになってきました。最近、センチコガネはきのこの周辺に深さ5cm位の縦穴に数頭で昼寝をしていることがわかりました。トラップにかかる甲虫で一番多いのはセンチコガネ、オオヒラタシデムシ、アオオサムシですがアオオサムシを飼育をしてもきのこを食べた様子がありませんが気長に観察しています。またアオオサムシは冬虫夏草のオサムシタケを発生させることで知られていますが最近、中山治美さんが珍菌のオサムシタンポタケやツチカメムシタケを採取、話題になっています。

スッポンタケ目のきのこの臭いに引き寄せられるのは双翅目のハエ類がほとんどですがキヌガサタケは始めかさの粘液にハエ類が、その後甲虫類がマントを食べにきます。それはキヌガサタケの臭いが大に関係していると思われます。古くなったキヌガサタケは腐った動物の臭いで、シデムシやゴミムシ等の死骸を好む甲虫が食べにきます。

多孔菌を好むオオキノコムシ科の甲虫類も古くなったきのこを砕いて見るとたくさん観察できます。きのここと生物のかかりあいは無限で未知なることばかりです。きのこの観察のついでに身近な可愛い甲虫たちも観察してみたいかたがたでしょうか。必ず楽しい発見があることでしょう。